

令和5年度

第2回

庄内町総合教育会議

議 事 録

令和6年2月22日

庄内町教育委員会

## 令和5年度 第2回 庄内町総合教育会議 議事録

- 1 会議日程 令和6年2月22日（木）  
     開会 午後1時30分  
     閉会 午後3時00分
- 2 会議場所 庄内町役場 B棟 会議室1
- 3 内 容  
     1 開 会  
     2 あいさつ  
     3 協 議  
         (1) 教育行政にかかる課題について  
         (2) その他  
     4 閉会
- 4 出席者（構成員）
- |       |                   |                   |
|-------|-------------------|-------------------|
|       | 庄内町長              | 富樫 透              |
|       | 教育長               | 佐藤 真哉             |
|       | 教育委員会委員           | 梅木 均（教育長第一職務代理者）  |
|       | 教育委員会委員           | 太田ひろみ（教育長第二職務代理者） |
|       | 教育委員会委員           | 齊藤 雅子             |
|       | 教育委員会委員           | 飯淵 義晃             |
| （職員）  | 総務課長              | 佐藤 美枝             |
| （事務局） | 教育課長              | 佐藤 秀樹             |
|       | 社会教育課長            | 樋渡 真樹             |
|       | 教育課課長補佐兼教育施設係長    | 菅原 光博             |
|       | 社会教育課長補佐          | 佐々木信一             |
|       | 教育課指導主事           | 齋藤 希望             |
|       | 教育課指導主事           | 富山 裕二             |
|       | 教育課主査兼学校給食共同調理場所長 | 阿部 和恵             |
|       | 社会教育課主査兼社会教育係長    | 齋藤 克弥             |
|       | 社会教育課主査兼図書館長      | 佐藤 晃子             |
|       | 教育課主査兼教育総務係長      | 渡部 進也             |
- 5 欠席者（構成員） なし
- 6 傍聴人 荘内日報

開 会	(午後1時30分)
教育課長	皆さんお疲れ様です。令和5年度第2回庄内町総合教育会議にご出席いただきまして、どうもありがとうございます。それでは、これより総合教育会議を始めさせていただきます。よろしくお願いたします。それでは、はじめに富樫町長からご挨拶いただきたいと思います。
富樫町長	挨拶
教育課長	ありがとうございました。 それでは3の協議に入りますが、本日の協議題といたしましては、資料の1ページ目をご覧くださいなのですが、教育行政に係る課題といたしまして、学校適正規模・適正配置基本方針について、それからのびのびと育つ教育環境の整備についてということ、それから、その他ということで人口増加についてという、以上3項目になります。

	<p>なお、協議に入ります前に若干説明をさせていただきます。本日の重点的な協議ということをお願いしたいものとしたしまして、1点目の学校適正規模、適正配置基本方針を考えております。こちらのほうに十分時間を割いていただければと思います。もし時間がなくなって他の項目に行けなかった場合は、次回に持ち越しということとさせていただきますと思います。それから本日の資料といたしまして、基本方針案に、パブリックコメントの回答、それから1月23日に行われた全員協議会の概要を付けております。こちらは後ほど説明をさせていただきますと思います。</p> <p>本日の協議時間は1時間半ということで、午後3時をまでを予定しております。それでは、町長よろしく願いいたします。</p>
富樫町長	<p>はい、それでは早速3協議に入りたいと思います。</p> <p>(1)教育行政に係る課題についてということで、今、教育課長の方からもありましたが、まず、学校の適正規模、適正配置基本方針についてということで、事務局から内容の説明をしてください。</p>
教育総務係長 教育課長	<p>(基本方針の内容等、資料に基づき説明をする。)</p>
富樫町長	<p>事務局の方から資料の説明をさせていただきました。学校の適正規模・適正配置基本方針について、改めて確認をしていただきながら、発言をいただければと思います。</p> <p>特にこの6ページの部分というのが、小中学校の適正規模(クラス数)、それから小中学校の適正配置(通学時間)、それから小中学校の適正規模、適正配置を実現する学校整備についてということでありましたけれども、先ほどの説明で気になったのが、「あくまで基本方針であるので、小学校の整備の枠組みについては含まないこと」というのがありましたけれども、(3)の部分と連動について、その辺の整理の仕方はどうなりますか。</p>
教育課長	<p>先ほど担当から説明したその意味は、審議会の答申は、2校が望ましいとなりました。その2校の具体的な審議会としての考え方を示してほしいということで、審議会で審議していただいたところです。審議会としては、小学校の組合せは1小から4小までが1つ、立川小が1つという組合せがいいのではないかとこの答申をいただいたところですけれども、この具体的な組合せに關しましては、教育委員会としての基本方針案の中では、ここまで盛り込まなくてもいいのではないかとというような話が出たということです。</p>
富樫町長	<p>あくまでも組合せということですね。</p> <p>どなたからでも結構です、いかがでしょうか。</p>
飯淵委員	<p>以前も話しましたが、一番困るのは子どもたちだと思います。通学時間に関してもそうですし、部活動をした後の帰り道等々を考慮したり、小学校の低学年の移動という時間を考えるとかなり悩むところではあると思います。現に今の立谷沢地区に住んでいる子どもたちからも、やはり長いという声もすでに聞こえてくる場所でもあるので、その辺をどう考慮していくのかということが一番の課題になってくると思います。</p>
富樫町長	<p>その辺何か議論したとか、何か出ている話題とかありますか。</p>
教育課長	<p>基本方針の7ページに、実際に進めていくに当たっての留意事項がありますが、バスの運行の方法で、例えば立谷沢地区を回って、清川を回って、狩川を回って、それで、余目中学校の校舎に行くようなやり方では、やはり時間がかかります。なのでその運行のやり方を考えて、立谷沢地区からの子どもたちに</p>

	<p>関しては、できるだけ止まらないで短時間で行けるような方法が必要ではないかというような時間に関する意見ですとか、あと部活動につきましては、活動する場所そのものを考える必要があるのではないかという話が出ております。常に余目地域の場所ではなくて、いろんなところを考えるのがいいのではないかというような意見が出てきたというところでございます。</p>
富樫町長	<p>今、小学校で一番遠い集落は鉢子でしたか。</p>
教育総務係長	<p>はい、鉢子です。</p>
富樫町長	<p>鉢子集落の座談会に行った時に、仮に通学時間が伸びるのであれば、道の駅でトイレ休憩などをしっかりとっていただけたらありがたいかなというようなご意見がありました。また、始業時間を遅らせるなどもあったようですので、どういう形でどういう対応ができるのかということについては今後ともいろんな検討を加える必要があるのかなと思います。</p>
飯淵委員	<p>少し補足させていただくと、以前もそういう説明もありましたし、その時も意見を述べたのですが、現在一番遠い集落が鉢子だとして、集落はもっと奥にもあるので、例えば1ターン、2ターンして地元に戻りたいという方が、ここから通わずには遠いというような学校づくりをしてしまうと、今後立谷沢の奥の方がどんどん寂れてしまうのではないかと危惧しています。そうしないような地域づくり、町づくり、学校づくりをしていってほしいなとは思っております。</p>
富樫町長	<p>他にありませんか。</p>
梅木委員	<p>アンケート関係の分析、審議会の中でいろいろな意見が出てきたものが、7ページにある留意事項だと思います。そこで今、飯淵委員が言ったように、スクールバスの検討が一番多く議論されてきました。子どもを中心に考えれば、どのくらいの距離が適当かや、どのような学校を作るんだというような学校施設整備だとか、教育内容についての意見もかなり出てきました。どういうパターンで進んでいくかはわからないのですが、将来的に小学校一校にするという考えで、こういった留意事項についていろいろ整備していけば、庄内町としての方向性がでてくるのではないかと思います。そういったものが、町民の方々や保護者の方々が望んでいることなのではないかなと感じがします。教育的な観点から学校整備することによって、庄内町という存在感を出したらいいのではないかと、そういうふうには私は受け取りました。児童数は徐々に減っていきますけれども、10年後になって、500人規模、400人規模、そういう大きな規模の小学校にして、いろいろ教育的な整備、ICTだとか、それから専門職の整備、人的支援の体制だとか、そういったものを教育行政の優先順位第一にして、教育でもって庄内町の存在感を出していくというような、そういうことで児童減少ということを緩やかに防いでいくことではないかなというふうに思っていました。</p>
富樫町長	<p>存在感など、教育の必要が当然あるわけですがけれども、教育長いかがですか。</p>
教育長	<p>施設設備、それから教育内容というところがありましたけれども、ハードの面では施設設備ということで、当然これからいろいろな設備を整えていくことが必要だと思います。あと一つは、教育としての存在感というところですが、これはまずなかなか学校だけでは教育は今厳しい状況になっております。ですので、やはりチーム庄内町としての地域と学校とか家庭とか、それぞれ地域で子どもを育てているんだという、そういう方策といったものを構築していくことによって、それぞれ教育に対して、庄内町がこういうことで頑張</p>

	<p>っているから、庄内町に住んでみようかなという、そういう魅力ある町づくりにつなげていくことも必要だと思っています。また、それぞれ特色ある魅力的な教育活動というものも、それぞれの規模に応じながら考えていかなければならないなと思います。中学校になりますけれども、今地域移行とか進んでいる最中ですが、幸いそういう指導体制がスポーツ協会等のご支援もありまして、庄内町は指導者の方に非常に恵まれている方だと思います。ですので、そういう地域との力を合わせていくというところが、最後には子どもたちの育成という面で力をつけていくことにつながっていくのではないかと思います。以上です。</p>
富樫町長	<p>令和6年度については、幼児教育、幼児保育のことであるとか、少子化検討会議ということも含めて、特にお子さんたち、発達障害の支援ももちろん継続してやっていきますが、特にこれから少子化に向けた全体的なまさに切れ目なくということであるとか、我が町の良さを生かした教育・保育体制の在り方についても改めて検討していただきたいということを申し上げておりますので、その辺も見ていきたいと思っています。一気に人が増えるなんてことはなかなかありえないことですが、今言ったような歯止めをかけながら、この地域に人が残っていただける、あるいは関係人口も全てつながるよう、そういった意味でのこの町の売りというか統一化、あるいはここに来るところがいいよね、ここで教育させたいよねと思っていただけるような環境づくりということでは、一緒になって考えていきたいと思っておりますので、より具体的な提案等があれば、以前も、幼児がここに来ると英語が話せるみたいな話もありましたけれども、いろんな仕掛けの中で、いろんな先進地もあるようでございますし、スポーツで何をめざすとか、芸術文化で何をめざすとかというのものもあるかもしれませんし、この町の良さ、その地域の良さを地域と連携しながらということが基本になろうかというふうに思っておりますが、その辺も含めていろんなご意見をいただければと思っておりますし、まずは本日は基本方針ということなので、これに沿って関連するご意見を改めていただければと思います。では、太田委員。</p>
太田委員	<p>先ほどスクールバスのご意見がいろいろありましたけれども、中学校を1校にする、そして小学校も将来的には1校になりそうだというふうにしてきたときに、やはりスクールバスを十分活用しなければならない状態になってくるだろうなと思っています。来年度の教育委員会の主要事業一覧のほうにもスクールバス、民間バスと運行委託事業に力を入れるというようなことがありましたけれども、1校になった場合、もっともつというふうな広がりがあるだろうなと思います。そのときに、町営バスもうまく使っていけないかなと、町営バスで地域の方と一緒にバスに乗るといった経験も子どもたちにとってはいい経験なんじゃないかなと思ったところです。そういうところで、行政と学校と子どもたちのために協力していくというようなことができたらいかなと思いました。それから、パブリックコメントの中に、どの地域の子どもたちも負担なく通えるような場所に建ててもらいたいというご意見が多かったと思うんですけども、それもそうだなと思います。庄内町に住んでいる人たちが、庄内町でよかったなって思うのは、立派な学校に子どもたちを通わせるからよかったなというより、学校教育が庄内町、しっかりしてるから庄内町でよかったなって、学校教育がしっかりしていると、町民の満足度ってぐっと上がってくるような気がします。そうした場合には、建物ではなく建物の中身がとても重要になってくるだろうなと思いました。今日の課題で、齊藤委員</p>

	<p>の方から、のびのびと育つ環境の整備についてという議題が出ていたんですけれども、のびのびと子どもたちが育てる学校教育、学校教育以外もそうなんですけど、学校教育が、庄内町はしっかりしてるよねっていうところがあると、それが庄内町のすごく大きな目玉になるんじゃないかなと思います。先ほどから出ているように、英語教育だとか、情報教育だとかというのもそうだし、人的支援ももちろんですけれども、子どもたちと直接関わる最前線の人たちの最新の情報を得る研修会みたいなものが大事になってくるんじゃないかなと思います。そういう研修会を開く、また研修会に参加してもらう、そういうことも随分お金がかかることだと思います。そして、先ほど部活というのがありましたが、何年か前は、中学校の部活は、余中か河北中かというふうに言われるくらい、県内でも部活に力を入れていたとお聞きしました。今、部活がだんだん地域指導者の方に移ってきている現状で、それでも地域指導者への謝礼だとか、お金が関わってくるんだろうなと思うんですけれども、町に頼るところが多くなってくるといふうにして思いました。小学校への人的支援もそうだし、今いらっしゃる先生方の力をさらに伸ばしていくような研修のような場が必要なのかなと思います。教育委員会の方針にこういうふうな形が出ていますけれども、方針をもとに検討会に入っていくと思うので、検討会をみていきたいと思います。</p>
富樫町長	<p>研修の話もありましたけれども、幼稚園の方も含めて増やしているはずですが、職員研修も含めて、なるべく研修の機会を増やしてくださいというお願いはしておりますが、職員研修について総務課長お願いします。</p>
総務課長	<p>教育関係は、教育研修所という組織があります。</p>
指導主事	<p>研修所の全員出席の研修や、夏は課題別に分かれて研修を、町でやっています。県からも研修に必ず参加してくださいという依頼があるので、そのところはカバーはできているかなと思います。あと、県から旅費が学校に配当されていて、その旅費を使って、東京に研修に行ったりとか、新潟などの研修もありますので、学校の先生は結構研修に行ったりしています。ただ、天童に教育センターがあるのですが、そこにいろいろ自主研修とか、自分から行けるような研修講座を設けているのですが、庄内から遠いので、そのところだけは行きにくいという課題があります。</p>
教育課長	<p>コロナの時期は、研修が若干減ったのかなと思います。オンラインが多かったこともありますが、やはりオンラインはオンラインの良さもあると思うのですが、やはり対面の方ができればいいのかなと思っています。最近、徐々にそのような形で戻りつつあるのかなと思っています。</p>
富樫町長	<p>教育長はどうですか。</p>
教育長	<p>先ほど太田委員からもあったとおり、生徒指導も含めた学習指導、いろいろな特別支援の方の力を高めていくということは非常に大切だと思います。ですので、今あったとおり、安心して出張して力をつけていただくというようなところが必要だと思いますし、現在もそれぞれ学校教育支援員と特別支援学級の講師と人的支援という意味で、町の方からもたくさん支援をいただいて、各学校に入って教員の質を向上させるとともに、そのサポート体制もしっかりしていきたいなと思います。</p>
富樫町長	<p>スクールバスの話もいろいろ言いましたけれども、これからの状況をしっかり加味しながら、また去年の夏も酷暑だったわけで、どういうふうにして天気予報を見ていくのかというのが難しいところがあるわけですが、事故</p>

	<p>が起きないということを前提に、最大限の準備をしながらというのが一番だと思いますので、皆さんで徹底していただければと思います。では、齊藤委員の方からお願いします。</p>
齊藤委員	<p>適正規模・適正配置で様々な意見が出ていましたが、子どもたちのことを考えても、やはり教育長がおっしゃったように地域の力が大切になってくることを考えると、建設の場所などで、ここに学校ができてよかった、応援しようと地域の人たちの心が一つになるような教育環境が整えていければいいなと願っています。</p>
富樫町長	<p>基盤整備も今やっているエリアがあったりして、何か所かはいずれ候補というところで出さないといけないんでしょうけれど。</p>
太田委員	<p>はい、齊藤委員のお話を伺って、アンケートを何回か取ってきましたけれども、やはり思い通りに皆さんの気持ちを全部満足させる場所の選定というのは難しいのではないかと思います。それでもみんながそこに決まったのか、じゃあ応援しましょうという気になるには、確固たるものをもって説得にあたり、納得してもらい、そういうふうなところが必要だと思いました。そういうことで、みんなが応援しましょうというふうな形になるんだろうなと思います。</p>
富樫町長	<p>そこを選んだ優位性をしっかりアピールして理解いただけるということ、そのような場所を選んでいただきたいと思います。</p>
教育課長	<p>パブリックコメントの意見、それから議会での意見を聞いても、やはり学校をまとめていくという方向に関しては、どなたも異論ないのかなというふうに思ったところでした。問題になるのが次のステップをどうするかということだと思いますが、そこもやはり住民の方の声を聞きながら、適正規模・適正配置の審議会でやったように、あのような形で、さまざまな方のご意見を聞きながら進めていきたいなと思います。やはり事務局だけで進めると偏りがあるのかもしれないので、偏りのないようにと考えていますということをおっしゃっていただきます。</p>
富樫町長	<p>何か言い忘れたこと、他の委員の皆さんのご意見を聞いて、ぜひ再度の発言がありましたらお願いしたいと思います。</p>
教育長	<p>7ページの(4)の③に記載したことで、始業時間を若干遅らせることや、下校時刻を早めるなどの教育課程の配慮というところ、これも大切だろうなと思います。小学校の建設場所は1カ所になるので、すべての子どもたちが最短距離で通えるということはなく、いろいろ時間がかかることは予想されますので、その辺は学校側に要請しながら工夫していただくというような配慮が必要だと思います。</p>
富樫町長	<p>町のハッピーバスとの混乗の話もありましたが、他の自治体では既にやっているところもありますし、庄内総合高校の事例もありますので、可能なのかどうかということも含めて、これから特に中学校が一つになった場合のどういうふうにして変えていけるかということについては、検討課題だと思っています。具体的に部活で、具体的なニーズも含めて可能なのかどうかの調整は今後必要なのかなというふうに思っていますので、その辺の担当の方に検討はさせたいと思います。</p> <p>この件については、予定より早く終わりそうな感じもありますが、大丈夫ですか。改めて教育委員会の中で協議ということになるんですか。</p>
教育課長	<p>今日のご意見をもとに、最終的に教育委員会で議決ということで付議事件の</p>

	<p>中で、教育委員会として決めますけれども、総合教育会議というこの場で町長と懇談の中で、方向性の確認だけはぜひお願いできればと思います。</p>
富樫町長	<p>基本方針としては、概ね皆さんからご理解いただいたということでよろしいでしょうか。では、そのような形の中で改めて教育委員会の中で最終的な議決をしていただければありがたいと思います。</p> <p>まずは委員の皆さんから毎回審議会の方も出ていただいております、十分内容は把握されているということで、次の議題に移ります。齊藤委員の方から出ていました、「のびのびの育つ環境の整備について」ということで、内容についても書いてありますけれども、齊藤委員の方からより具体的な内容をお聞かせください。</p>
齊藤委員	<p>庄内町に限らず、まず子どもたちがこの頃おとなしくなったような感じがしてなくて、仕事柄、子どもたちに接することがあるのですが、最初はのびのびしていた子どもたちが、小学校4年5年とだんだん上がっていくにつれて、よく言えば落ち着いてくるのですが、自分の意見が言えなくなってきていると感じています。果たしてそれはどうしてこうなって、そうじゃない子どもたくさんいるんだろうけれど、どうしても自分の意見を言えない子が増えてきたように感じていて、じゃあそれがどうすればいいのかというのがわからないのですが、多分目立ちたくないっていうのが一番あって、学校でおとなしく自分の意見を言わない、自分がこうしたい、これが好きだ、あれが嫌いだっていうのを言わないで友達同士で過ごしていたり、もしかすると家庭の中でも我慢して言わないできている子どもたちがいるのかなと感じることがあります。で、その子どもたちを、人にこうと思われても自分の意見を言う力を付けるには、どうしていったらいいのかなと考えているのですが、それが教育の専門家でないのでわからなくて、いろんな人に触れるということが一番いいのかなとも考えています。そうすると先ほどから意見に出ている地域の方をみんな教育の方に手伝ってもらいたいかなとも思うと、まちづくりセンターなどと協力しながら、学校とまちづくりセンターもみんな地域の人が関わってくると良いのかなと思っていて、ただそうするとじゃあどういふふうな機会をつくっていくかというのは、町として取り組んでいくと地域の大人が子どもと関わる機会が増える何かが必要なかなと思っています。町の子育て日本一を掲げているときに、子どものいる世帯だけでなく、庄内町の人全体が、うちの町は子育て日本一を目指すんだ、こういう子どもたちになってほしいんだ、自分たちもそれに参加しているんだという、自分も参加したくなる子育ての何か取り組みができると、町ぐるみで取り組みができると良いのかなと思っていますが、具体的な内容がわからないので、ここで課題として出させていただきます。</p>
富樫町長	<p>富山先生、実態としては何か傾向など、こういうお子さんたちが増えているとか、あるいは他の小学校、自治体も含めてなんですけれども、現場の声として何か対応も含めてどうですか。</p>
指導主事	<p>人柄にも関係するのかなと思うのですが、この地域では、人が良い代わりにグイグイは来ない、グイグイ来ない代わりに人が良いかなという時はあります。ただ、子どもたち同士とか、慣れている大人の先生に対してはちゃんと話ができるのですが、見ていると初めて来る地域の方と一緒に給食を食べるとか、お世話になった方と歓迎会をされるとか、そういう初めての方の大人に対してはものすごく人見知り感を出すなどは思って、私もそこを何とかさせようと思ったのですが、やっぱりそのメンタルを変えるのは難しかったです。話し方</p>

	とかそういうことではないなと思いました。
富樫町長	希望先生は何か感じているところがありますか。
指導主事	夢サポート塾とかで中学生と関わる中で、始めの頃は休み時間とか結構わって喋っているのですが、挨拶とかもなかなかしても返してもらえなかったりということが結構ありました。ただ回数を重ねるごとに毎回会っていると、だんだん今日はありがとうございますとか話すようになるので、やはりちょっと人見知りとかそういうところはあるのかなと思ったりしています。立川の方は太田先生に関わってもらって、小学校の時から結構見知った関係だからなのか、少し柔らかい感じで接しているなという感じはあるので、長く付き合っていくと違ってくるのかなとは思っています。今、家族としか接する機会がなくて、いろんなところに遊びに行くのも送ってもらったりしているということで、いろんな人、地域の人と触れ合う経験が少なくなっているということも影響があるのかなとは思っています。先日、学校運営協議会の中で、今地域の方が学校の方に足しげく通っていただいたりしているんですけども、そういうのが普通になってきた、学校の中に地域の方がいるのも普通になってきたというお話も聞いたので、そういうところで少し打破していけたらいいなという気持ちは持っています。
齊藤委員	子どもたちはとってもデリケートで優しいので、大人が思う好ましい子どもの姿というのを感じて、それが無言の圧力じゃないけれど、こういうふうな振る舞いをした方がいいのかなというふうに思っているのかなと思うときがあります。そうするとやはり地域性もあって、大人もあまり会合とかでも意見を言わなかったり、そういうところがあるので、穏やかでうまく集団的にまとまってはいるんだけど、そこをなんとか大人も伸び伸びと思うし、自分も考えるのが難しいのですが、本当は大人が楽しく接している姿を見ると、子どものお手本になるのが、そこから考えるとどうしていいのかわからないところもあるのですが、大人の方は、子どもは大人しくていうことを聞いてくれるといいなという無言の圧力をかけないようにすると、大人でいろんな人にやっぱり接するというのがとても子どもたちにとってもいい環境だと思うので、近所のうるさいおじいちゃんとかでも、やはり関わることでこういう人もいるんだということで、外に出ていく力をもらえるかと思うので、なんとか子どもたちをみんなで育てるんだよってという姿勢を、この子育て日本一の中に盛り込んでいければいいのかなと感じました。
太田委員	日頃思っていることなんですけど、自分が思ったことを口にできるお子さんを育てるには、やはり学校教育の毎日の授業がしっかりしていれば大丈夫かという気持ちがすこし私にはありますので、私が小学校の図書館ボランティアだったり、それから見守りボランティアだったりして教室の中に入ることもあります。教室の中が割合自由で人の話を聞かずにわっと喋るお子さんが多いような雰囲気の中だと、大人しい子はいっ引込んでしまう。何も喋らないで、自分が自分がついていうお子さんだけになってしまって、喋らなくなってしまうことがあるなと思いました。どういうふうにしたら、よく聞く、人が話していることを尊重して聞くことがすごく大事だと思うんですけど、なかなかそういう雰囲気にならない。どうしたらいいかなというふうに私なりに考えたのは、先ほどから出ている、やはり地域の方の協力が必要なのではないかなと思います。地域の方の協力も、例えば稲刈りでの教育だとか、調理実習での教育みたいな、授業での地域の方に協力してもらうこともあるけど、そう

	<p>ではなくて、日常的に学校に地域の方が足を運んでいるような、そういう状態が必要なんじゃないかなと思いました。だから、学校がもっと地域にオープンになっていくことが必要だろうなと思います。</p> <p>大したことはできなくても、子どもたちのために何かやれることがないかなと思っている、私方世代で何か協力しようと、いろいろできる人がいると思うんですけど、それからお母さんの中でも、仕事していないお母さんとか、やはり見守りボランティアとして入っている、そういうふうな日常になってくるような状態がすごくいいんじゃないかなって思いました。あともう一つは、おとなしい子どもほっとできる場ということで、私は図書館もとても大事な場所だと思っています。おとなしい子どもが図書館でほっとできる、そういうふうな図書館教育をもっと学校で進めていったらいいのではないかなと思いました。先ほど研修会という話がありましたけど、なかなか庄内町で、司書の資格を持っている先生方を司書として採用するのはすごくお金がかかることなのでなかなか難しく、事務補助の先生が中心になって図書館整備を行っていると思いますが、そういうふうな方たちの研修会への参加をぜひ促してほしいと思います。自主参加という形になるとなかなか参加できないかなと思いますし、図書館教育に関する最新の情報だとか、それから「図書館教育を頑張らなくては」という意欲の持続のためには必要だと思います。そういうふうなところを後押しして、子どもたちの読書活動、図書館は面白いよ、図書館でほっとして本を読んでね、おとなしい子どもゆっくりできるような場ってというのが必要なような気がします。せっかく町立図書館があるので、町立図書館の方から学校図書館の方に行って、いろいろと各校の図書館を見ていただいてアドバイスをいただくとか、そういうふうな場もぜひ欲しいかなというふうにして思っています。そういうようなことで、自分たちの意見を、自分の考えを言えるお子さんの手助けができればなと思っています。</p>
富樫町長	<p>図書館の話が出たので、司書の話とか、司書の研修の話と、皆さんから来ていただける場所と子どもたちから来ていただける場所作りというところで話をしてください。</p>
図書館長	<p>まず前段の太田委員の方から最初に出たいろいろなお子さんがいらっしゃるようで、その中に一つでおとなしいお子さんを受け入れられるような学校図書館作りというお話がありましたけれども、確かにおっしゃる通りで、私が今携わっているのは公立図書館を作っているわけです。その中の基本計画の中でも、サードプレイス、第三の居場所という表現を使って表させていただきましたが、その中でお子さんにも入っていて、あらゆるいろいろな多様なお子さんが安心して過ごせる図書館の空間作りということを意識して、設計にも反映させていただきたいということで今進めています。深くいろいろな人と関わりを持ちたいお子さん、あるいは一人で集中して過ごしたいお子さん、緩やかにつながりたいお子さん、いろいろな多様なお子さんがいるわけで、それぞれ安心して自分の個性に合わせて自分の滞在するスペースを選んでいくということで、小さいコンパクトな公立図書館ですけれども、できるだけそれを実現できるような、体現できるような設計空間作りということを意識したつもりです。公立図書館としてはそういった意味で5月以降はあらゆる多様なお子さんを受け入れる体制を作っていきたいなと思っています。ただし、私たちは教育のプロではありませんので、環境作りはしますけれども、できるのはある程度見守りというところまではできます。ですので、それこそ緩やかにつながって行って、また来たなということで、今日いつもより元気が</p>

	<p>ないとか、そのあたりまでは自分の方でも配慮しながら見守っていきいたいなというふうに思っています。それで、次に、学校司書の皆さんとか、司書の関係の話ですけれども、私自身も公立図書館の司書ということで、学校司書の専門分野まではなかなか理解していないところもありますけれども、公立図書館の職員が学校司書の皆さん、事務の先生たちとも、いろいろ見守りの場で助言などをしたりという、そういった体制をとられているところも耳にはしていますので、まず情報収集をさせていただいて、そういった近隣の先進事例も収集しながら、将来できることをさらに模索して行きたいというふうに思っています。</p>
富樫町長	<p>図書館の職員が各小学校に行つて、図書指導というような機会はあるのですか。</p>
図書館長	<p>過去に個別にというのはありませんでした。読み聞かせなどに行つて、その後の反省会などで、学校図書館の困りごとみたいなことをお聞きして、多少アドバイスすることはありました。一同を介してアドバイスするということはありませんでしたが、個別に対応していることはこれまでもありました。</p>
富樫町長	<p>図書館のPRも含めて各学校に出向くような、来てもらえるような仕掛け作りは、何とか6年度、具体的に進めてください。</p> <p>小学校のクラブ活動とかで、例えば地域の皆さんと関わりとか、前に余目二小に民謡クラブとか将棋クラブとかがあったような気がします、コロナ後になって、そういう具体的に各小学校とかで、地域の、立小の金管バンドみたいなものはあるわけですが、数的に増えているのか、もうちょっと増やしてもらえる可能性があるのかとか、スポ少とかはいろいろあるわけですが、どんな感じですか。</p>
齋藤指導主事	<p>はい。ちょっとコロナ禍前と比較してどうか分からないのですが、庄内町では、従来から小学校の課内クラブ、授業時間の中で行うクラブに、地域の先生方から来ていただいて、いろいろ教えていただくというのはあったようです。地域学校共同活動等でも、中でもされているようで、踊りですとか料理とか、いろいろなところで地域の先生が講師として入っていらっしゃるということは聞いていますので、数として増えてきているかということは、ちょっとわからないんですけども、地域人材を活用したクラブ活動は、金管バンド以外にもよく行われているのかなというふうに感じております。</p>
富樫町長	<p>教育長はどうですか、全体的に。</p>
教育長	<p>おととい学校運営協議会があつて、ある学校のグループの話し合いの中に、やはり現実に地域でも学校でも、人との関わりに不安や抵抗感を持っている子どもが増えたという話がありました。それから発表力の低下、今話題になっているところです。それが当然、SNS、スマホ、タブレット、ゲーム等という話し合いの中にも出ていましたし、それからコロナのところもあるでしょうし、それからその中で、ある小学校の中では、スポ少の表彰の説明を今まで先生方がしていた、何々スポ少はこういうふうになってきました、そういうのを今度からは子どもたちに話をさせようと、やはり意図的に、いわゆるアウトプットの機会を増やすというような、そういった討論が必要なのかなと思っています。来年度の重点と視座の中にも、相手の話を尊重しながら聞く力と自分の意見を話す力の育成というところを新たに、案としては入れようとしているところが一つあります。あともう一つは、やはりコロナもいろいろあつて、例えば中学校あたりの体育祭だとみんな協力してやっていこうという、そこに</p>

	<p>コミュニケーション生まれます。そうすると、他の人と協力して物事を成し遂げていく、そういういろいろな行事を積み重ねていく機会を増やしていくというようなところも、前回の校長会で来年度に向けてということで話したところでした。それから3つ目になりますが、教員の研修に来年度考えているところなんです、授業の中の生徒指導ということです。その中に、例えば安心して言えるという中に、通称生徒指導というのは自己存在感を与えるとか、共感的な人間関係だとか、自己肯定感と言われていたものにプラスして、安心安全な風土の醸成ということがあります。つまりこういう話し合いの中で、やはり安心して言える友達関係、先生との関係、そういったものを普段の授業、それから休み時間も含めていろいろな行事を通して積み重ねていくということが学校としてはできるし、そういったものを地域のまちづくりセンターというお話もありましたが、そこと連携しながらそういったものも共有しながら進めていければなと思ったところでした。以上です。</p>
富樫町長	<p>新年度予算の中で、図書館の話も出ていましたが、ランドセルはずっと続けてやっていますが、幼稚園に上がるときに絵本をあげようということで、新年度予算の中で、幼稚園の入学記念として絵本がいいんじゃないのということで進めています。親御さんと一緒に選んでもらって、まずはお母さんお父さんから読み聞かせをしていただく、言葉を覚えていただくということになるのか分かりませんが、本が身近にあってずっと物心ついたときから、あの本一番最初に記憶に残っているんだというのが子どもたちに根付いてもらえると図書館への距離もずっと縮まるでしょうし、本に親しむということにもつながると思っていますので、新年度としてはまずはそんなふうな仕組みをできればというふうに思っています。あとはやはりその学校教育の中でみんなで行っていけるような、グループ活動的なことで、誰もしゃべれない人がいないような形とか、第三小学校で、班ごとに庄内町で家族で一日楽しむとしたらどこへ行こうかみたいのでやっていただきましたけれども、班ごとのいろんな特徴が出て、非常に町内を見てるなということと、町内の飲食店をよく知ってるなと感じました。やはり何もしゃべれない子がいないような仕掛け作り、遊びの工夫の仕方みたいな、自分たちで遊びも工夫してきた地域の皆さんと一緒にということで、体験型というのも、もう1回必要な部分もあるんだろうというふうに思っています。委員の皆さん並びに先生方からも再度検討していただきたいと思います。先日、学校給食で、私は余目中学校の1年3組に行っただけでしたが、具体的に私も子どもたちに将来の夢を言える人といったら何人か手を挙げてくれてですね、消防士になりますと言った子が一人目だったと思います。声優になりますとか、会計士になりますとか、一人プロ野球選手かサッカー選手になりたいという子もいましたけども、子どもたちはいろんな思いをしながらも、しゃべれる子は一生懸命しゃべるなというふうに思ってきましたので、隔たりがないように子どもたちに頑張っていただけのような環境づくりということで、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。今の関係で皆さんの方から最後に発言があればいただきたいのですが、まずは今日のところはこのような形で止めさせていただきたいと思います。では、飯渕委員のところ、人口増加について、発言をしてください。</p>
飯渕委員	<p>山形県の高齢化率が非常に高くなって、全国県レベルでも、これに関しては今現在5位だそうです。庄内地域、庄内町を含めると、さらに県の平均よりは高いということなので、まず人口減の歯止めを効かせるためには、かなり高齢者数が高いところで、10年後もっと増えていく見込みが出ていますので、どう</p>

	<p>しても生産年齢人口を増やしていく、働き子育て世代を増やしていくための展望があればと思います。子どもたちが増えれば、適正規模・適正配置の考え方にも影響してきますし、先ほど町長も言ったように、一気に300人も子どもが増えるというか、そんな夢みたいな構想はなかなか難しいと思いますが、例えば大きな企業を誘致するとか、そうではなくて別の方向で魅力ある町づくりをしていく考えがあって、これからIターンなりUターンなり、いろいろな人がここに居住したいというような仕掛けを、これからの展望を持っているのであれば教えていただきたいと思います。</p>
<p>富樫町長</p>	<p>今年ランドセルは去年に比べて何人増えたのですか。7、8人増えて141人でしたでしょうか。第1小学校は2クラスになります。令和4年度が84名の出生しかなくて、令和5年度が3月までの予定で今のところ89名という数字なんですけれども、一気にV字回復するなんてことはなかなかありませんが、全体的な人口は減少していますけれども、世帯数はほぼ横ばい、もしくは微増ということで、7100世帯ぐらいの数字なんです。ということは比較的若い皆さんも含めて、核家族になっているのかお子さんがいらっしゃる方も含めて、家を建てていただいているという方もいるんですけれども、人口増大策その一つの施策だけでは本当に決まる話ではないので、簡単ではないというふうに思っています。去年の12月22日に国の人口問題研究所が2050年の人口推計を出して、山形県の人口が71万人だったでしょうか。庄内は16万人になるんですね。そうすると、鶴岡市が7.7万人、酒田市が6.6万人、庄内町は1万400人、三川町が5千人、遊佐町が6千人という数字が出ておりましたが、そうならないように、もっと緩やかにするためにはどうすればいいのかということでは、人材不足ということも含めて、外国人人材の活用というのが一つ、県も言い始めていますし、あるいは、例えばその環境整備で言えば、青森県が小中学校の給食を全部無償化します。都道府県では初めてということのようですが、どういう子育て支援の仕方をすればいい、鈍化するのかということで、議会の方でも岡山県の奈義町でしたか、岸田首相が見に行ったというようなところがあるんですが、そこでもやっぱり増えてはいないんですね。出生率が2.何倍だったか、増えてはいないんですけれども、それでも手厚い住宅支援であったり、子育て支援であったり、もう一つのキーワードは、やはり近くに仕事場があるということも当然あります。昨日も阿蘇裕矢先生の講演を聞く機会がありましたが、やはり我が町の優位性をどう活かしていくのか、一つは交通の要衝であるということ、鶴岡、酒田にも近いし、JRも含め、空港、鉄道、道路ということでも、地理的にはかなり、このエリアにおいては一ついいところがあるでしょうということ。やはりこの人口規模でできるという、酒田、鶴岡だと給食費、全額無料化なんて絶対、鶴岡は半分くらいやっているのでしょうか、酒田はもう全然無理ですとかという話、あるいは子育て支援策も一人一人どうのこうの、誕生祝い金とかの話ももう全然無理ですという話になっているんですけれども、実質的には本当はお金じゃないはずなんです。その環境整備というのがどうすればいいのかということ、それから本当に複合的な要素がいっぱいあるので、仕事がある、あるいは安心して、医療ということでも、去年の12月1日から余目病院さんの小児科の先生が来ていただいたことによって、だいぶ良かったですねということであるとか、先般、飯淵委員のところから立川地域の奥山先生がとうとうで、明るい兆しのお話も伺っておりますので、そういったトータル的な環境整備ということが一番重要なんだろうと思っておりますし、そしてやっぱりそこに住</p>

	<p>んでいる人たちの熱というか、この地域の良さを一緒にという、この地域に住んでこの仕事に誇りを持って頑張っていくことが本当にいいんだというような思いを、どれだけ共有していただけるかということも重要だと思っておりますので、その辺を学校教育の中でやっぱり教育を中心にしながら、具体的にこれはどこでもすごい命題になっていますし、どこから来いという、以前は人口奪い合い対策みたいな話になっちゃうので、そうではなくて、やはり合計出生率をどうやって上げるのかということも含めてですね、あるいは正規労働者という話もあるじゃないですか、今までやっぱり給料が上がらなくて全然、仮に結婚しても子供を作るのをもうちょっと先でいいんじゃないかみたいなことも含めてですね、あるいは、去年そのメタバース婚活というのをやったら、うちは8分の6だったんですね、非常に良くて、県の方も是非というので、今年は庄内広域でやったらいいんじゃないか、まあ国の補助金もかなり入るとい話なので、今そういうのがどちらかという、マッチングアプリでお相手を見つけた率がもう20数%に今なっているというようなことも含めてですね、時代が違って、行政がどこまで関わるかという問題は当然あるわけですが、そういう周りの状況をしっかり判断しながら、いろんな方策を打ち出していくということの内容だというふうに思っておりますので、教育現場の方も教育長の方も、人口増一直線か、難しい話なのかもしれませんが、コメントがありましたらお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>今、学校整備のお話がありますが、まずハード面にはそういう施設整備をまとめていくというようなところの魅力というところがありますし、あとは先ほどから話し合っている教育活動をやはり充実させていくということ、そして地域との連携を構築して、チーム庄内町として高めていくというようなことがあると思います。そしてついにはやはり庄内町のふるさと教育を通じて、やはりここでお世話になったからまた戻ってきて、ここでまた何かを、例えばバスケットボールを習ったからバスケットボールを教えようとか、このところでやはり温かい人たちがいるから、自分もそこでまた住みたいと思うような、そういうふるさと教育というものもやはり進めていきたいなと思っております。少子高齢化に直結するものかどうかは分かりませんが、そんな形で学校の中でも教育として、または社会教育全般としても地域全体をつなげていけたらなと思っております。</p>
<p>富樫町長</p>	<p>やはり齋藤雅志先生の祝賀会の時の雅志先生の挨拶の中の一つで一番嬉しかったことというのがあって、中学校の時に保健室とか学校に来なかった子が二人ほどいて、一緒同じ時期ではないんでしょうけれども、体操には来てもらったのか、最終的に学校を卒業してどうしてると聞いたら、頑張って勉強して先生になりましたという、学校の先生になってもらって、あの子頑張ったというので、体操のことよりも先生の後ろ姿を見てもらって先生になっていただいたことが、ある意味で先生やってよかったかなみたいな話もありましたので、そういった意味でどんな職業でもやっぱり後ろ姿をしっかり見てもらいながら共感する子どもたちがいて、意思を継いでもらえるなんてことが最高に素晴らしい話だと思っておりますので、そういったことが可能になるような学校教育の在り方、あるいは地域との関わりの中で、それぞれのまちづくりセンターを中心にしながら頑張っていただけのような仕掛け作りを今後ともやっていただければありがたいし、我々もそういうことを黒子になりながら仕掛けていければというふうに思っておりますので、ぜひとも皆さん方からもご協力をいただければと思います。ということで何か提案が、これをやったら</p>

	いいんじゃないかみたいなお話でもし皆さんの方があればお願いします。
齊藤委員	庄内町の商業で庄内総合高校の生徒さんたちが作ってくれた、あれはすごくいいなと思いました。だから若い子たちが庄内町のために何かをして、それが結果で現れるっていう経験がいっぱい積んでいくと、自分たち大人になったときに庄内町で働こうという気持ちももしかして芽生えやすいというか、そのまま定着してくれることが多いと思うので、まず何か得意なことを庄内町のためにという言い方があれだけど、何か得意なことをして、それが町全体の役に立つっていう経験ができる場所があるといいかなと思いました。だから若い子たちを中学生、小学生からもそうだけど、小学校、中学校、高校生をボランティアとかそういうもので、町の普段の何か活動に取り込んでいくことがリターンというか、帰ってきたいなって思う気持ちを育てることになるかと思いました。
富樫町長	たぶんその小さな成功体験が大きなものにつながっていくし、その一つ一つが実績になってということで、あのグランプリの影響も長南一美さんが一番喜んで、正月にカップ花笠音頭を作ったから見てくれと、まずお茶でもどうぞという話をしたのですが、いやそれだけ見せに来ただけだからと言って帰ってしまって。まあそういう意味では、いろんな方が元気になるという子どもたちもそうなんですけど、あれもアフロリゅうじさんという YouTuber の方がちょっと仕掛けてくれて、私は東京から来る機内で今度こんなの出来ましたって、何か引っ掛かりそうな気がして、高校生のアイデアもそうなんですけど、そういうの一つ一つやっぱり、無駄なことは何もないんだっていうチャレンジを仕掛けていけるようなことができればいいなと思っています。ということで大体の時間になったようですが、ぜひこれだけはということがありましたら。ということで今日 3 点ほどお話をさせていただきましたので、まとめていただきながら、できることはすぐ年度内に取り組みます。これを含めながら、要するにオンラインについては、しっかり検討させていただいて、次に移れるような体制作りを含めて、次の回における課題として、協議を終了させていただきたいと思います。あとは事務局にお返しします。
教育課長	1 点目の学校適正規模・適正配置に関する基本方針案につきましては、この会議で賛同いただいたというふうに思いましたので、次の回、教育委員会の付議事件の中で、改めて教育委員会としての議決ということをしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。 それではこれもちまして、令和 5 年度第 2 回庄内町総合教育委員会を終了させていただきます。皆さんどうもお疲れ様でした。
閉会	(午後 3 時 05 分)

会議の顛末を記載し、相違ないことを証明するため署名する。

令和 6 年 月 日

庄内町長

教育長